

多摩

組報 多摩 No.9
発行日 2009年11月1日
浄土真宗本願寺派
東京教区 多摩組
事務所/圓福寺内
東京都調布市国領町1-10-11
〒182-0022 TEL042-482-7955
<http://www33.ocn.ne.jp/~tamaso/>

本願寺御影堂平成大修復の完成

本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要に際しての消息

本日、ここに本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要を皆様と一緒にお勤めすることができましたこと、まことに有り難く、喜ばしく思います。

宗祖親鸞聖人のご真影様を安置する本願寺御影堂は、寛永十三（一六三六）年に創建され、今日まで三百七十余年にわたって護持されてきました。その間、創建から百七十年ほど後に大修復がなされましたが、その後二百年近くとなり、損傷等が進んだため、新たに大規模な修復が必要となりました。

このたびの大修復は、京都府の監理の下、文化財保存修理の専門家による優れた伝統の技に、先進の技法も取り入れられ、さまざまな困難を克服して、その完遂をみることでございました。ご尽力いただいた皆様に深甚の謝意を表しますとともに、創建以来、御影堂を護持してこられた先人のご苦勞をしのびたいと思います。

平成十一年一月十六日の起工式以来、十年にわたるご修復事業が仏祖ご照覧のもと、国内はもとより、世界各地の僧侶や門信徒をはじめ、有縁の方々の報謝のご懇念に支えられ、また、世界文化遺産に登録され

た重要文化財として、公的資金の補助を受けて進められてきましたことは、まことに尊く有り難いことです。

ご真影様を安置する御影堂は、ご開山聖人として親鸞聖人のみ跡を慕い、浄土真宗のみ教えに生きる私たちのこころのふるさとであり、宗門の要です。

親鸞聖人は、迷いと苦悩の中で生きる私たちに、本願力回向の信心をめぐまれて、お念仏申す往生成仏の道をお示しく下さいました。それは、人間中心、自己中心的な欲望にとらわれている私が、阿弥陀如来の智慧と慈悲に照らされ包まれ、御同朋御同行と手を携えて歩む道です。

平成二十三年・二十四年には、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお勤めいたします。ご修復の完成を機縁として、聖人のみ教えが、御影堂とともに末永く受け継がれますよう努める決意を新たにいたし、ともに大遠忌のご法要をお迎えいたしましう。

平成二十一年 四月二日
二〇〇九年

龍谷門主 釋即如

御動座法要と完成奉告法要

並びに完成慶讃法要

工期十年にわたる本願寺御影堂の修復が、この春完成した。

本年四月一日に、工事の間阿弥陀堂にお引越し頂いていた親鸞聖人の御真影を新しい御影堂にお移しし「御動座法要」が営まれた。この日より新しい御影堂へ参拝できるようになった。

翌日四月二日には、「本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要」が営まれ、午後には「本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要に際しての消息」発布式が行われた。

また、五月二十日・二十一日には、宗祖降誕会が営まれ、引き続き五月二十二日・二十六日にわたり、本願寺御影堂平成大修復完成慶讃法要が営まれた。



親鸞聖人七百五十回大遠忌法要 多摩組お待ち受け法要

平成二十三年・二十四年には、ご修復を終えた本願寺御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が厳修されます。

この法要に先だつて、各教区・各組・各寺院において、「お待ち受け法要」が勤められます。この法要は、組内の僧侶門信徒をはじめとする関係者の気運を盛り上げるとともに、組の活性化をはかり、積極的な寺院活動を促すことを目的として修行されるものです。多摩組においては、左記の通り計画されており、詳細については、現在検討中です。

平成二十二年六月十五日

会場 築地本願寺
帰敬式を予定

京都本願寺 親鸞聖人七百五十回大遠忌法要 団体参拝募集

京都本山での親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は、平成二十三年四月から平成二十四年一月まで七期にわたる法要が予定されており、

多摩組では、平成二十三年六月十二日に参拝を予定しており、団体参拝者の募集を行います。詳細は、各御寺院へお問い合わせ下さい。

募集人員 三五〇名
旅 程 二泊三日
費用 約八万円

▼第一日目

東京駅 九時半発
午後本願寺法要参拝
京都市内宿泊

▼第二日目

本願寺参拝・拝観
午後近江八幡
岐阜・長良川温泉宿泊

▼第三日目

白川郷散策
飛騨高山又は上高地散策

多摩組第八期連続研修会

今年四月より、多摩組第八期連続研修会が始まりました。

今回は参加希望者が予想以上に多く、開始後も参加を申し出る人がいて、最終的に四十四名の受講者となりました。

前半（平成二十一年度）の予定は左表の通りで、現在第四回を終了しています。

第一回の出席者は四十九名（内登録受講者三十四名で）、出席者は熱心に聴講、活発な質疑応答がなされました。

今期より、多摩組門徒推進員協議会のメンバーである各自の門徒推進員が、裏方として協力しています。連研は、ご門徒のレベルアップにつながるだけでなく、お寺の活性化にも寄与します。関係者の方々のご協力をよろしくお願いいたします。（麻木）

多摩組第八期連続研修会日程

- 第一回 四月十八日（土）会場 圓福寺
講師 藤原忠房師（誓願寺住職）
- 第二回 五月十六日（土）会場 正善寺
講師 藤原忠房師（誓願寺住職）
- 第三回 六月十三日（土）会場 西照寺
講師 細川真彦師（覺證寺住職）
- 第四回 九月十二日（土）会場 覺證寺
講師 細川真彦師（覺證寺住職）
- 第五回 十二月十二日（土）会場 正善寺
講師 宮本義宣師（神奈川組高願寺住職）
- 第六回 一月三十日（土）会場 圓福寺
講師 宮本義宣師（神奈川組高願寺住職）



第一回連続研修会（於圓福寺）

私とビハーラ活動

光源寺住職 佐々木 瑞恵

東京ビハーラ「がん患者・家族語らいの会」に参加するようになって二十年が過ぎました。

先々代の住職である私の父の、五年に及ぶがん患者としての生き方を目の当たりにしたことが、この会に参加する原体験になっています。

もう五十年近くも昔のことで、「告知」という言葉すらほとんど聞かれない時代のことでしたから、父は「胃潰瘍」と説明されて、胃全摘の手術を受けました。しかし、その後の経過に不信を抱いた父は、自ら主治医に問い正して、本当のことを聞き出しました。その説明の中で、「五年間再発がなければ一応完治」という言葉を聞いて療養に努める一方で、後に残される女ばかりの家族のことを思ったのでしよう、『いま出来ることは精一杯やっつていこう』と気迫に満ちた日々を送りました。

そのひとつが、寺籍を築地から現在の当地に移して以来、仮本堂しかなかった光源寺に、『何としてもご本堂を建立しなければ』と術後の痩せた体に頭陀袋を首から下げてご門徒さんにご寄進のお願いをして回り、現在のご本堂を残してくれました。

ご本堂の竣工も成り、病氣から解放されると心待ちにしていた目標の五年に数か月となったとき、大量の吐血をして緊急入院をしました。しかしそのときには、がんは

もう全身に広がっていました。凄まじい痛みに苛まれながらも、医師から「もう治療法はありません」と告げられると、父はすぐに退院して、自分の葬儀の準備を始めました。

これまでにお世話になった方々に会ってお礼を言うとともに、「家族のこと、これからよろしく頼みます」とお願いをする日々を送りました。しかしそれもあつという間に過ぎ、葬儀の段取りも全て自らで整えたところで、家族にお礼の言葉とともに「先に往って待っているから」と告げると、昏睡状態に陥りました。それは、退院してからちょうど一ヶ月目のことでした。父はわたくしに、本当にたくさんの大事なことを残してくれましたが、そのときの看取りの体験が、「ビハーラ活動」への参加の道をも開いてくれたのだと、いまさら有難いことと感謝の念を覚えます。

わたくしは寺族にこそ生まれ育ちましたが、真のお念仏に出遇ったのは四十歳を過ぎてからのことでした。あるときから無性にお念仏が心に響くようになり、仏教学院で学ばせていただくようになりました。そして、そこで僅か一年間を過ごさせていだいただけで得度させていただきましたが、そのことから更に、お念仏を通しての生き方の道として、「ビハーラ活動」と出

遇えたことは、たいへんな幸せでした。

仏教は苦しみからの解放を目指しますが、我が身に「がん」という苦しみを受けた方々が、図らずも我が師となって共に歩んでくださることは有難いことです。苦しみを共にすることでご自身を振り返り大切なことに気づかれたとき患者さんは大きく成長されます。その姿から人はどんな状況にあつてもそれを乗り越えて大きく拓かれていく力を持つていることに感動いたします。まさに「大悲無倦常照我」を実感させて頂くことです。

無常迅速を思いつつ、先に往かれた方から導かれている日々を有難く思うこのごろです。

浄土真宗本願寺派では、一九八七（昭和六十二年）に「ビハーラ活動」が始まりました。

この「ビハーラ活動」とは、仏教徒が、仏教・医療・福祉のチームワークによって、支援を求めている人々を孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとす活動です。そして私たち自身が、苦しみや悲しみを縁として、自らの人生の意味をふりかえり、死を超えた心のつながりを育んでいくことを願いとされています。

すなわち、「ビハーラ活動」とは、「生・老・病・死」の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアであり、「願われないのち」の尊さに気づかされた人たちが集う共同体を意味します。

浄土真宗東京ビハーラ（築地本願寺内）

連絡先 ○三（五五六五）三四一八

仏教壮年会

仏教壮年会の活動

野田 和義

◆「東京教区仏教壮年会連盟結成記念日研修会」が、本年二月二十一日（土）～二十一日（日）一泊二日の日程で、伊香保温泉ホテル天坊で開催されました。担当は群馬組で、参加者約三三〇名。多摩組より二〇名が参加しました。

次回平成二十二年度は、山梨の都留組が担当で、山梨県の石和で二月に予定しています。

◆「東京教区仏教壮年会連盟の総会並びに大会」が、五月十日（日）に本願寺築地別院第二伝道会館蓮華殿で開催されました。

◆「多摩組仏教壮年会理事一泊研修会」が九月六日（日）～七日（月）に開催されました。参加者は十一名（内一名は誓願寺藤原住職）。

初日は、富士吉田市の如来寺・正福寺・大正寺の三ヶ寺を参拝させて頂き、それぞれ寺院の由来や独自の活動のお話しをうかがいました。

まず如来寺は、もとは真言宗の寺院でした。時の住職浄円が聖徳太子旧跡巡拝中の親鸞聖人に帰依し、浄土真宗に改宗された寺院だそうです。現住職は音楽が好きで、時々お寺でライブを開催されています。

また、お寺の中では至る所に音楽が流れておりました。

次は正福寺です。境内には経蔵があり、正面に掲げられた「一音蔵」の額は、一品親王直筆で、その建物の中には華麗なる八角輪蔵が備えられておりました。

八角輪蔵は、お経を収める回転式の八角のダンスになっており、一切経五千七百巻が収められているそうです。

また、お寺にはお年寄りのためのバリアフリーの配慮がなされていました。

次に大正寺は、歴史ある古いお寺ですが、およそ十年前より、中国北部のゴビ砂漠の緑化運動（沙漠緑化アミダの森）に協力されておられるそうです。当初植林された地域は現在では森林になっており、米や野菜なども作られているそうです。植林はポプラの樹で乾燥に強いのですが、およそ一メートルも掘って植えるそうです。現在は、春と初秋の年二回植林作業のボランティアで現地に行かれ、ボランティア参加者の中には、八十歳～九十歳くらいの方もおられるそうです。十年間かけて育った広大な森も、ゴビ砂漠のほんの一点にすぎないそうです。

三ヶ寺ともに大歓迎をいただき、参加者一同感謝に堪えません。このあと宿泊ホテルに向かいました。二日目は、甲府市の甲斐の善光寺へお参りいたしました。

◆全国仏教連盟記念日大会 十月十日
京都西本願寺御影堂において開催

◆多摩組仏教壮年会の研修会

十月十七日（土）午後二時より正善寺（調布・仙川）において開催

講師松本智量師（八王子 延立寺住職）
講題「法然上人と親鸞聖人に学ぶこれからのお寺」

総代世話人会 理事ご挨拶

理事 井上雅晴



このたび、多摩組総代世話人会の理事をさせて頂いたこととなりました、圓成寺の総代、井上雅晴と申します。

来たる親鸞聖人七百五十回大遠忌に向けて、微力ではございますが、お手伝いさせて頂きたいと存じますので、よろしくお願いたします。

なお、十二月に総代世話人研修会を予定しております。

詳細が決まりましたら、ご案内させていただきます。

仏教婦人会



東京教区仏教婦人会連盟多摩組代表

紋谷智子
もんやともこ

今年度、多摩組仏教婦人会でお役を務めさせていただいています。紋谷智子と申します。所属は八王子の延立寺で、そちらの婦人会（やまゆりの会）では、毎月の例会で写経、廃油利用の石鹸作り、お菓子作り、フラダンスなどで和気あいあいと過ごしています。また、個人的には地域ボランティアとして、独居老人の方への給食活動などに携わっています。

仏教婦人会の活動

多摩組仏教婦人会では、毎日のご恩報謝の気持ちをも、ひとりひとりが、家庭そして社会に生かすことを旨に、楽しく活動してまいりたいと思います。

今年度は、六月十五日、午後一時より、小雨の中、仙川の明西寺様で、多摩組仏教婦人会研修会を開催いたしました。仏教讃歌のご指導のあと、田中教照師よ

り、『浄土真宗の教章 私の歩む道』をテーマに、法話を頂戴しました。今を生きる私たちにとって道標となる、仏法の大切さがひしひしと胸に伝わって来ました。多数ご出席をいただいた方々との、おいしいお茶とお菓子を頂戴しながらの交流も、たいへん有難いものでした。盛大なそして有意義な研修会となりましたことを御礼申し上げます。

おかげさまで多摩組仏教婦人会にはとてもなごやかで温かいつながりができています。この念仏の輪を、さらに大きく広げていきたいと存じます。多摩組に所属していらっしゃる婦人の皆さまのご参加ご協力を心よりお待ちしております。

門徒推進員連絡協議会の活動

門徒推進員 麻木純三郎

多摩組門徒推進員連絡協議会は、二年前に六名で発足しました。

門徒推進員多摩組第一号の石岡さんがご往生されましたが、その後、四名の新しい門徒推進員を迎えました。昨年は式藤孝行様（明西寺）を迎え、現在では十名で構成されています。

一昨年、昨年と二年間にわたって「歎異抄」の学習会を終了し、今年には「正信偈」の読書会を開催しており、第四回まで実施いたしました。テキストは「正信偈を読む

（霊山勝海氏・本願寺出版社）」を使用しています。

毎回「読み手」を交替し、読了後話し合いを行っております。また、今年度より始まった多摩組第八回連続研修会についても、メンバーが協力しております。

親鸞聖人七百五十回大遠忌を前にして、門徒推進員はそれぞれのお寺の活動はもとより、組・教区の基幹運動を推進するべく、自覚を持って行動しています。

各寺院のご住職・関係者の方々のご支援をよろしく願っています。



中ブロック門徒子弟研修会

サマーキャンプ

in 阿字ヶ浦

初めて海で開催



「阿字ヶ浦」に全員集合

今年のサマーキャンプは、初めての海での開催でした。昨年同様、円福寺さまで開会式。新門様のお言葉を頂戴し、子供四十三名スタッフ三十八名の参加で、初回曇り空の中、茨城県ひたちなか市の阿字ヶ浦海岸にむかいました。

幸い雨にはなりませんでしたが、海に入るには少し涼しく、早めに切り上げて砂浜で、スイカ割りを楽しみました。まるいスイカはあまりなじみがないらしく、思っていた以上に盛り上がりました。夜は、同じく砂浜で、花火です。これこそ夏の楽しみという一日でした。

二日目は、朝からうれしくらいの暑さで、思いつき海を楽しみました。でももちろん、一日の始まりは宿舎の研修室にお仏壇を設け、子供の代表が導師を勤めての「おあさじ」からです。そのあと、砂浜のゴミ拾いをして、海水浴です。

阿字ヶ浦の海岸は、堤防で区切られているので目も届きやすく、遠浅の人工の海岸線で、低学年の子供でも安心して入れる海でした。そんな中目玉になったのは、西照寺さんのカヌーです。映像で見たことはあっても、実際に乗ったことのある子供はなく、行列のできる体験授業となりました。

今回のスタッフには、小学生のころに参加したという、中学生、大学生が多く来てくれました。大人のスタッフも、もうこの子が中学生かと、自分の年は忘れて、喜んでいました。このように大きくなって帰ってくる子がいたり、中学生になったから今度は自分が面倒をみるという気持ちだが、サ

マーキャンプのテーマ「自然に親しみながら「いのちの大切さ」を考える。手を合わせる心、感謝の心を養う」につながっているのではないのでしょうか。

今年のサマーキャンプは、中ブロック門徒子弟研修会ということで、多摩組だけでなく、中ブロック各組のキッズサンガの担当者もご参加いただきました。海ということとで、例年とは違う危険もあり、いろいろな心配な点もありましたが、多くのスタッフに助けられ、事故なく終わることができました。毎年のことではありますが、お忙しい中ご参加ご協力をいただいている多摩組のご住職方、また、雨の時も子供たちにいいたい出をと、毎年毎年準備をし、心配りをいただけて参加下さっているスタッフの皆様、心より感謝申し上げます。(内手)



出発前に新門様を囲んで班ごと記念写真

住職に聞きました

お寺を訪ねて

長専寺（調布市富士見町）

今回は、調布市富士見町にある緑水山長専寺をお訪ねいたしました。

長専寺は、京王線西調布駅から徒歩約十三分。調布駅からは徒歩約十七分の、中央高速道路調布インターチェンジ近くで、近所にはまだ畑も点在している静かな場所にあります。長専寺のお隣のお寺は同じ多摩組の覺證寺で、親戚筋にあたるとのことでした。更にお隣には浄土宗のお寺もあり、



伊東道雄御住職

お寺にご縁の深い地区といえます。

お訪ねした日には、中学校の教員を十八年勤められたという伊東道雄住職が、こやかに私達を迎えて下さいました。お話しをされている間は、授業をされている先生の様に、わかり易く丁寧に細かいところまで、私達に教えて下さいました。

長専寺は一五九四年（文禄三年）江戸浜町に創建され、その後明暦の振袖火事により浜町から築地に移転し、関東大震災により調布市飛田給（現在の味の素スタジアム）に移転しました。しかし飛田給に寺基を移転してから後に、太平洋戦争が始まり、調布飛行場を離発着する戦闘機の邪魔になるとのこと、飛田給より現在地へ覺證寺ともども、旧本堂をそのまま引っ張って移転させ、当時はたくさんの方が、この様子を見に来られたとのことでした。

伊東住職は平成八年に第十三代住職に就任されました。そして平成十二年より多摩組の組長に就任されました。以降八年間多摩組の代表者として、その重責を担われました。組長時代には色々な問題に対して全力で取り組まれ、まとめてこられたとのことでしたが、中でも将来を担う青少年向けのサマーキャンプの実施、特に年齢枠を問わない連続研修会の開催、都留組と組んでの仏教壮年会の拡大等が思い出に残ることでした。また連続研修会の参加者と、房総や北海道・伊豆・かくれ念仏と鹿児島別院訪問等の旅行を実施し、浄土真宗のお寺訪問や懇親を深めたことが、今でも懐かしい思い出となっているとのことでした。

お寺での布教活動としては、文書伝道に力を入れ、春秋の彼岸会・降誕会・盂蘭盆会・報恩講等の法要を通して、ご門徒の方々の交流を深めているとのことでした。

ご門徒さんは築地の時代からの方々が多くおられますが、近年調布周辺のご門徒さんもかなり増えてきているとのことでした。境内には一般墓地の他に、白毫墓という個人形式の立派な共同墓地や、動物愛好家のご門徒さんの気持ちを汲んで、ペット用のお墓も用意してありました。

現在は組内で仏壮研修部長の立場にあられますが、組長時代から仏壮の拡大に力を入れておられましたので、これからも以前の経験を生かして、もっと組内の仏壮の組織拡大が図れる様に、色々な手助けをしていきたいとのことでした。また東京教区の教区会多摩組代表としても活躍しておられます。

最後に私達門徒推進員連絡協議会に対するご意見をお伺いしますと、現在行われている組の連続研修への応援活動を通して、今後連研に参加された方々と旅行等を通して、更に浄土真宗への理解を深めたいというのでは、との貴重なご意見を頂きました。

色々なお話しを伺っている間にも、教師として活躍されていた時の経験が滲みだし、私達にも色々なアドバイスがありました。おそらくご住職の教師としての経験が、長専寺とご門徒産との間を深く結びつけているベースになっているのではと感じながら、お寺をあとにいたしました。

西本願寺（京都・本山）

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

本願寺築地別院（築地本願寺）・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目1番1号

築地別院電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺（こうとくじ）〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
TEL03(3300)6431 FAX03(5384)3344
(法座：不定期 お問い合わせ下さい)

明西寺（みょうさいじ）〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
TEL03(3300)1901 FAX03(3300)2681
(法座：10日前後婦人会 1.4.8月壮年会)

延浄寺（えんじょうじ）〒182-0006
調布市つつじが丘2-30-1
TEL03(3326)7337 FAX03(3326)5037
(法座：不定期 相談日第1日曜日午後予約)

長専寺（ちょうせんじ）〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
TEL042(482)3411 FAX042(498)1105
(法座：不定期)

西照寺（さいしょうじ）〒182-0003
調布市若葉町1-39
TEL03(3300)7734 FAX03(3300)7794
(法座：毎月8日・第4土曜 親鸞会)

光西寺（こうさいじ）〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
TEL03(3300)5054 FAX 同左
(法座：不定期)

光源寺（こうげんじ）〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
TEL03(3300)0881 FAX03(3308)6289
(法座：隔月奇数月 お問い合わせ下さい)

覺證寺（かくしょうじ）〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
TEL042(482)5556 FAX042(480)0166
(法座：第1土曜日)

正善寺（しょうぜんじ）〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
TEL03(3300)6064 FAX03(3300)6687
(法座：第1日曜日(1日なら8日))

安養寺（あんようじ）〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
TEL03(3307)5605 FAX03(3307)5496
(法座：第1日曜日)

圓福寺（えんぶくじ）〒182-0022
調布市国領町1-10-11
TEL042(482)7955 FAX042(481)4734
(法座：不定期)

国立市

應善寺（おうぜんじ）〒186-0002
国立市東2-2-1
TEL042(572)0043 FAX042(572)0148
(法座：毎月1日・16日)

立川市

光西寺（こうさいじ）〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
TEL042(522)3413 <http://www.kousaiji.com/>
(法座：毎週金曜晚又は土曜昼 各種仏教講座)

小平市

照恩寺（しょうおんじ）〒187-0041
小平市美園町3-23-20
TEL042(341)2935 FAX042(347)4122
(法座：毎月13日・第1土曜・第4土曜)

青梅市

浄弘寺（じょうこうじ）〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
TEL0428(32)1769 FAX0428(32)2010
(法座：第3土曜日)

八王子市

専念寺（せんねんじ）〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
TEL042(644)3491 FAX042(648)6087
(法座：隔月1回 お問い合わせ下さい)

誓願寺（せいがんじ）〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
TEL042(651)0073 FAX042(651)6183
(法座：第3木曜日・毎月10日大楽会)

光照寺（こうしょうじ）〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
TEL042(635)3754 FAX 同左
(法座：不定期)

本光寺（ほんこうじ）〒1923-0832
八王子市散田町4-40-10
TEL042(664)2196 FAX042(663)2501
(法座：不定期 お問い合わせ下さい)

延立寺（えんりゅうじ）〒193-0802
八王子市犬目町681
TEL042(654)2429 FAX042(654)6930
(法座：第4月曜日)

大恩寺（だいおんじ）〒193-0943
八王子市寺田町1085
TEL042(668)0889 FAX042(668)1825
(法座：第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会))

町田市

圓成寺（えんじょうじ）〒194-0004
町田市鶴間1210
TEL042(795)0181 FAX042(795)0444
(法座：毎月28日)

圓成寺出張所（えんじょうじ）〒194-0035
町田市忠生3-24-13
TEL042(792)3007 FAX042(792)3006
(法座：毎月10日 休日なら翌日)

町田布教所（まちだふきょうじょ）〒195-0063
町田市野津田町2534-20
TEL042(737)3236 FAX 同左
(法座：第2土曜・23日前後の平日)

多摩市

阿弥陀寺（あみだじ）〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
TEL042(375)8055 FAX042(337)4889
(法座：年3回・毎月28日 明宝会)

稲城市

玄忠寺（げんちゅうじ）〒206-0822
稲城市坂浜878-6
TEL042(331)3655 FAX042(331)3511
(法座：第3日曜日)

(法座へお出かけの折には、必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)